

11 ピーナッツやあめ玉などは子供の手の届かないところに置いていますか。

子供の口の大きさは最大直径32mmなので、小さな物は口の中に入りません。おもちゃが口の中に入ってしまったら、食べ物が飲みこめないでどにつかえてしまったりします。子供ののどは未発達なので、気管に物が入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさぐ大きさで、気管に入っていると気が付かないと、肺の炎症を起してしまいます。



ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えない。
食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え、
ゆっくり食べさせる。

12 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。

お母さんがシャンプーをしている少しの間でも、子供は浴槽をよじ登っておぼれてしまうので、浴槽の外にいるからといって安心できません。また、勝手に浴室に入り、浴槽のふたを開けておいたために転落しておぼれないよう、入浴後、浴槽のお湯は抜いておき、浴槽のふたは入浴する直前に外します。



入浴後、子供が小さいうちはお湯はすぐに抜いておく。
浴槽のふたはたわみにくいしっかりとしたものを選ぶ。

13 子供が浴室のドアを開けて一人で中に入ることがありますか。

知らないうちに浴室に入ってしまう、浴槽をのぞきこんでおぼれてしまった事故が起きています。浴室のドアは開け放しにせず、外力ギを掛けて自由に入れないようにしておきます。



子供が簡単に浴室に入れないように
ドアに外力ギを付ける。
子供だけで浴室で遊ばせない。

子供の健康相談室（小児救急相談） #8000

子供の健康・救急に関する相談に看護師や保健師等が応じています。
また、必要に応じて小児科医師が対応します。

☎ #8000（携帯電話、プッシュ回線の固定電話。
ただし、ひかり電話、IP電話からは、つながりません。）
03(5285)8898

相談日時 ○月曜日から金曜日（祝日・年末年始を除く）
午後6時から翌朝8時まで
○土・日・休日・年末年始
午前8時から翌朝8時まで

東京消防庁救急相談センター #7119

急な病気やけがをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのか?」「今すぐ病院に行ったほうがいいのか?」等迷った際の相談窓口です。相談医療チーム（医師、看護師、救急隊経験者等の職員）が対応しています。

☎ #7119（携帯電話、PHS、プッシュ回線）
（ダイヤル回線からは）03-3212-2323
又は 042-521-2323

相談日時 24時間年中無休

TOKYO子育て情報サービス

妊娠・子育て及び事故防止等に関する情報をインターネットにより提供しています。



TOKYO 子育て情報サービス

検索

または 東京都福祉局ホームページトップ>子供家庭
>子育て支援>TOKYO子育て情報サービス

赤ちゃんを亡くされたご家族のための電話相談

SIDS（乳幼児突然死症候群）をはじめ、その他の病気・流産・死産・事故などで赤ちゃんを亡くされたご家族の精神的な支援のために、専門職（保健師又は助産師）やビフレンダー（同じ体験をしたご家族）による電話相談を行っています。

☎ 03(5320)4388

相談日時 金曜日（休日・年末年始を除く）
午前10時から午後4時まで

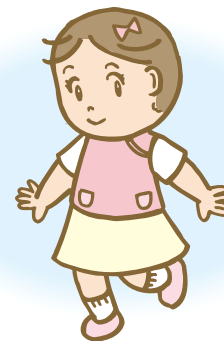
著作・編集：元国立保健医療科学院生涯保健部 田中哲郎
東京都福祉局子供・子育て支援部家庭支援課

発行：
出版承認番号：6福祉企企第390号

子供に安全をプレゼント

1歳6か月児健診用

（1歳6か月～3歳児対応）



事故防止のポイント

！子供のまわりには危険がいっぱい 周囲のちょっとした気配りで事故の大部分は防げます。

1 子供が遊んでいるまわりに、つまづきやすい物や段差がないか注意をしていますか。

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくれあがったカーペット、公園の石段など、子供は足元を見ないで突進してくるので、ちょっとした段差にもつまづき転倒します。ある程度高さのある段差は認識できますが、ちょっとした段差は逆に気づきにくいので、注意が必要です。

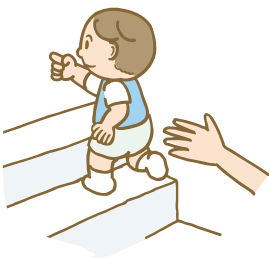


子供のまわりに、つまづきやすい物や段差がないか確認する。
部屋の中は整理整頓しておく。

2 階段を上り下りするときは、手をつないだり、大人が子供の下側を歩いたりしていますか。

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるように子供の下側を歩きます。最初は後ろ向きにハイハイして下りるようにし、歩いて下りられるようになったら、手をとるか子供の横か下側を歩きます。

また、大人の目が離れることがあっても安全のように階段の上下階にはさくをつけ、閉め忘れないようにすることで、階段からの転落事故を防ぐことができます。



階段の上り下りは、大人がいつも子供の下側を歩くか手をつなく。
階段の上下にはさくをつけ、閉め忘れないようにする。

3 子供の位置を確認してからドアを開けていますか。

開き戸を勢いよく開けたら反対側にいる子供にぶつかったり、ドアや引き戸が透明ガラスだと閉まっているのが分からなくて突進しぶつかったりすることがあります。ぶつかって割れても飛び散らないようにシールやフィルムをはって防止しましょう。



子供の位置を確認してからドアを開閉する。

4 ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありませんか。

口に物を入れたまま歩いたり走り回っていると、壁にぶつかったり転んだときに口の中を切ってしまうたり、のどを突いたりする危険があります。また、手に持っていれば、転んだとき突き刺してしまいます。



ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえたまま走り回らせない。

5 子供の腕を強く引っ張ることがありませんか。

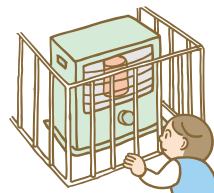
おもむつを交換した後、子供を起こそうとして腕を勢いよく引っ張ったり、転びそうになって片腕を急に引き上げたり、遊んでいて急に引っ張ったりしたときに脱ぎゅうを起こすことがあります。脱ぎゅうは癖になりやすいので、腕を急に引いたり、強く引き過ぎたりしないように、注意が必要です。



子供の腕を引くときは強くなりすぎないようにする。

6 子供が熱い物に触れないようにしていますか。

食事の準備をしている台所は子供にとって危険な場所のひとつです。コンロから下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に触ってしまったら、足元にいる子供に熱いスープや油などがかかってしまうと、ひどいやけどをしてしまいます。



ストーブやヒーターなどは安全さくで囲い使用する。
食事の準備をしている時は台所に子供を入れないようにする。

7 医薬品、化粧品、洗剤などは子供の手の届かない所に置いていますか。

子供は大人のまねをしたがるので、引き出しに入っている薬を取り出して誤飲してしまうことがあります。また、お母さんが使う化粧品にはことのほか興味があるので、洗面台や化粧台の上に無造作に置かないようにします。



薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。
薬入れにおかしの空き缶などを使わない。
化粧品や洗剤は棚の中に保管し、扉は開けられないようにしておく。

8 子供が鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありませんか。

子供はビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやおかしをおもしろ半分鼻や耳に詰めてしまうことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。

特に鼻から入ったものは、長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。

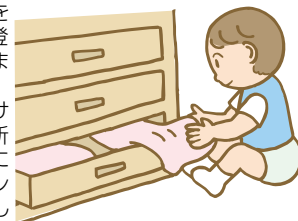


子供が鼻や耳に小物を入れて遊ばないように注意する。

9 子供が引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありませんか。

家具の引き出しを開け閉めして指を挟んだり、引き出しを出してよじ登りタンスが倒れて挟まれたりします。

サッシの鍵の部分は子供の背たけからいってもいたずらしたくなる所なので、簡単に開けられないようにしておきます。気密性の高いサッシに挟むと、ひどい場合は指を骨折してしまいます。



引き出しやドアを開け閉めして遊ばせない。
サッシの溝には消しゴムやラップのしんなどははさんで事故を防止する。

10 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

子供はなかなかじっと座っていません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、抱きかかえて乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していなくても、衝突による力は子供を死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。



車に乗せるときは、チャイルドシートを後部座席に正しく取り付けて、座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。